

シンポジウム「健康寿命の延伸に対する取り組み—20年のあゆみとこれから—」

座長：能村 友紀（新潟医療福祉大学 作業療法学科 教授）

県内高齢者に対する介護予防・健康寿命延伸への取り組みと今後の課題
—今、専門職として何ができるのか？—



佐藤 成登志

新潟医療福祉大学 理学療法学科 教授

本学ロコモ予防研究センターは、県内市町村の高齢者に対して、介護予防や健康寿命延伸を目的とした活動を継続的に行っている。

新潟市秋葉区では、2010年から地域「いきいきふれあいサロン」における運動指導やサポーター育成を継続的に行い、2019年からは、フレイル予防の啓発や調査・研究を行ってきた。また、胎内市では、2013年からノルディックウォーキングを取り入れたロコモ予防運動の介入や膝・腰・肩痛等の運動器痛に対する予防についての啓発と調査・研究を行ってきた。さらに、2018年からは、新潟県からの委託を受け、介護予防における連携事業を行っている。

本シンポジウムでは、ロコモ予防研究センターにおいて取り組んできた上記2つの地域についての概要を説明する。また、2025年度構想である地域包括ケアシステムにおける総合事業や新潟県の人口・高齢化・要介護状況に触れながら、「介護予防における県・市町村・大学との連携事業」についての取り組みや現状までの成果を述べる。この連携事業は、国が推奨している住民主体型の「通いの場」の効果検証や新潟版「通いの場」介護予防プログラムを提案し、さらには通いの場を県内に拡充・継続することを目的としている。また、本学の強みである専門職による多職種連携を特徴としている。

末尾に超高齢化社会が待ったなしで進む社会情勢の中で、「今、専門職である我々は何ができるのか?」、「何をしなくてはいけないのか?」を問いながら今後の展望について述べる予定である。

<略歴>

2008年 新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了 博士（工学）
1989年 県西部浜松医療センター 理学療法士
1995年 新潟リハビリテーション専門学校 専任教員
2002年 新潟リハビリテーション病院 主任理学療法士
新潟医療福祉大学 臨床助教授
2006年 新潟医療福祉大学 助教授（名称変更後 准教授）
2014年 新潟医療福祉大学 教授

<資格>

理学療法士、専門理学療法士（運動器・教育管理）

<社会活動>

日本理学療法士協会代議員、日本理学療法士協会倫理委員、新潟県理学療法士会会長・理事、新潟県リハビリテーション専門職協議会会長、新潟県地域包括ケア支援専門職協議会会長、日本マイチューニングアプローチ学会理事・北陸支部長

<学会活動>

日本理学療法士学会、新潟県理学療法士学会、日本腰痛学会、日本運動器疼痛学会、理学療法科学学会、日本マイチューニングアプローチ学会、新潟医療福祉学会

<教育研究活動>

新潟医療福祉大学 ロコモティブ症候群予防研究センター センター長
新潟リハビリテーション病院 非常勤理学療法士
日本脊椎脊髄病学会 腰曲がりに対する保存療法の検証WG委員